

# 令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

資料 1 - 2 - 5

団体名(所管課名) コミュニケーションネットワーク岩槻(岩槻区コミュニティ課)

事業名

自治会役員向けデジタル活用講座

事業の目的 デジタル活用による区民の利便性向上

事業の目標 (1) 自治会向けの講座を実施し、デジタル活用の利便性及び必要性の認識を促すこと。  
(2) サポートデスクを開設し、デジタル活用に主体的に取り組める体制を構築すること。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分 できた	概ね できた	充分では なかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			話し合いを重ね自治会役員の実情に合った目標設定を行うことができた。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 (成果:協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)		○		参加人数が少なく、問題の解決にまでは至らなかったが動画や資料など今後を活用できる成果物を残すことができた。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。		○		参加者のほとんどが講座へ継続して参加した。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 (良い効果:互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)	○			自治会組織の現状や課題を知ることができた。所管課の大変さを実感することができた。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			短時間の面談や、メールでのやりとりを頻繁に行い情報交換を行った。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			講座内で実際にスマホ操作のサポートをし、今後も継続できることを告知した。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	事業提案者の予期せぬ異動により、改めて情報共有することに時間がかかったが、協働事業という土俵に同じタイミングで乗ることができ、意識あわせを十分にしてから事業を実施できたことはよかった点だと思う。事業の成果物である講座内容の動画や資料は公開しているので、コミュニティ課を中心に各自治会で有効に活用してもらえればと思う。市民協働推進課からの手厚いサポートがないと申請や手続き・報告などはかなり難しく時間もかかり、初めてマッチングファンドを利用する団体にはハードルが高いのではないかと感じた。				

# 令和5年度さいたまマッチングファンド助成金一般助成事業 評価表

団体名(所管課名) コミュニケーションネットワーク岩槻(岩槻区コミュニティ課)

事業名

自治会役員向けデジタル活用講座

事業の目的 デジタル活用による区民の利便性向上

事業の目標 (1) 自治会向けの講座を実施し、デジタル活用の利便性及び必要性の認識を促すこと。  
(2) サポートデスクを開設し、デジタル活用に主体的に取り組める体制を構築すること。

該当する所に○をつけてください

項目	評価の視点	評価			評価理由など
		充分できた	概ねできた	充分ではなかった	
1 事業の目的と目標の設定	協働事業の目的・目標は、両者が共有・設定することができましたか。	○			協働協定書を作成するための打合せにより共有・設定することができた。
2 事業の成果	事業を実施したことで、地域や社会の問題を解決する成果はありましたか。 (成果:協定書に設定した目標の達成、参加人数等の事業の結果を表す数値)		○		参加者は10名程度と想定より少なかったが、スマホを積極的に活用しようという意欲を促すことができた。また、講座資料の整備により、参加できなかった方からの相談に対応できる体制が構築できた。
	市民が市民活動に触れる、参加の機会をつくるなど、地域の市民活動の活性化につながりましたか。		○		講座には団体の代表、講師の他、サポート役として高校生の参加もあり、活発な質疑応答が見られた。
3 協働事業の効果	協働により事業を実施したことで、事業に良い効果はありましたか。 (良い効果:互いの組織への良い影響、気づきやノウハウの獲得)	○			専門的な資料やノウハウの提供を受けたことで、所管課として今後の相談対応に向けて非常に有意義な事業となった。
4 市民活動団体と担当所管課との連携	協働事業には、互いに情報交換し、連携して取り組むことができましたか。	○			連絡を密にし適宜打合せを行うことで十分に連携して取り組むことができた。
5 事業の適切な取組	事業実施にあたり、参加者や関係者等へ適切な声かけなどのフォローに努め、今後も繋がりが持てるきっかけをつくることができましたか。	○			サポートデスクの一環として、所管課が今後の相談窓口を担うことを周知できた。
★事業を振り返り、気づいたこと・感じたことを自由にお書きください。 (例) ・協働して感じたこと ・マッチングファンドの良い点、改善点など	立場の異なる者がそれぞれの視点で事業を検討することで、参加者の需要に概ね応えられたと思う。一方で、もっと多くの方に参加してもらうために、対象者の年代を考慮して出張講座を行うなど、もっと時間をかけて別の方策も検討できたらよかった。				

様式第7号（第11条関係）

令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成金実績報告書

令和6年3月28日

（あて先）

さいたま市長

所在地

団体名 コミュニケーションネットワーク岩槻

代表者氏名 須藤 順子

令和6年3月28日付け市市協第5-46号で交付決定の通知を受けた令和5年度さいたま市市民活動及び協働の推進助成事業（一般助成事業・団体希望助成事業）が完了したので、さいたま市市民活動及び協働の推進助成金交付要綱第11条の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| 1 交付決定額                  | 金 96,193 円 |
| 2 精算額                    | 金 96,193 円 |
| 3 事業実施報告書                |            |
| 4 事業収支計算書                |            |
| 5 添付書類                   |            |
| （1）支出を証する書類              |            |
| （2）事業の成果物、写真、その他事業に関する資料 |            |

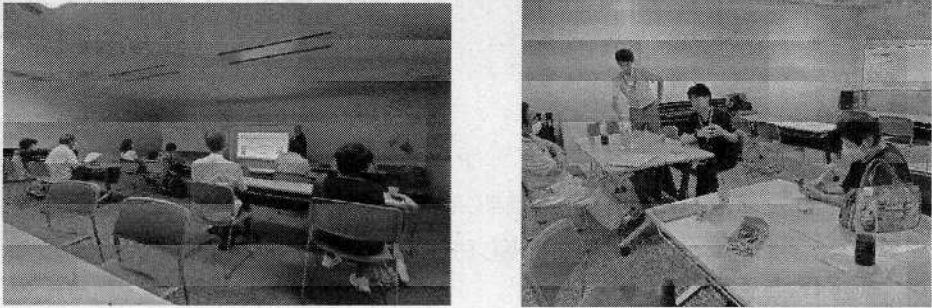


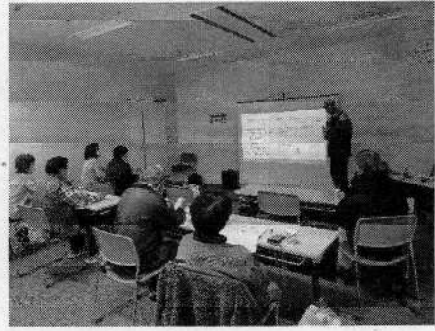
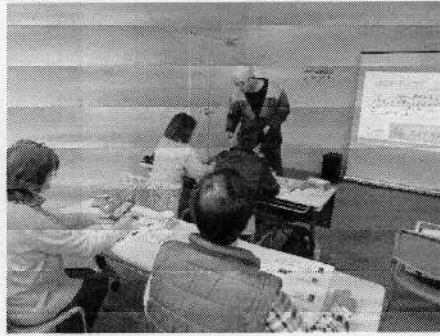
## 令和 5 年度マッチングファンド事業実施報告書

団体名	コミュニケーションネットワーク岩槻
-----	-------------------

事業名称	自治会役員向けデジタル活用講座	
実施期間	令和 5 年 5 月～令和 6 年 3 月	
総事業費	126,924 円（内訳は別添事業収支計算書参照）	
内 助成金交付申請額	96,193 円	
事業の目的	<p>* 計画書の「1 現状における課題と事業の目的」（この事業は何を目的に設定しましたか？）の記載事項を転記してください</p> <p>地域の住民がスマートフォンなど ICT 技術を使い、さまざまな生活情報や行政情報を得ることで生活の質を高めることを目的に行います。そのために地域で普及活動を行う必要があり、まず今年度は講座や体験を通して自治会役員にスマートフォンや ICT の利便性を理解してもらい、次年度以降の地域での普及活動へとつなげます。</p>	
事業の実績	事業の具体的な内容	
	いつ	9 月 2 8 日/12 月 5 日/2 月 2 9 日
	どこで	岩槻区役所会議室
	だれに	自治会役員
	なにを	スマホ講座及び質問会
どうした	自治会役員にスマートフォンや ICT の利便性をしてもらうための講座を 3 回実施しました。1 回目の講座では講義内容を動画撮影。編集後に YouTube にアップしました。講座配布資料も QR コードから読み取れるような工夫をし、いつでも多くの自治会・コミュニティ課と情報共有できるようにしました。	
	（詳細な内容）別紙のとおり	
	成果	
	* 事業の結果を表す数値を記載ください（例：参加人数等）。	
	講座参加人数延べ 20 名（4 自治会）	
	効果	
	* 事業を実施することで、地域や市民にどのような良い結果をもたらしたか記載ください。	
	スマートフォンや ICT に興味関心を持ってもらえた。受講後に自治会役員間での連絡手段としてライングループなどを活用し始めるなどの動きができました。講座の内容はすべて YouTube で公開しており、さらにテキストのデータも公開しているので、今後地域でスマホの利用を広めたいと思ったときに活用することもできます。そして講座に参加した自治会同士の交流やコミュニティ課職員との関係性も近くなったように思います。	
事業の評価	<p>* 事業実施にあたって、課題となった点、工夫した点、良かった点、苦労した点等、評価を記載ください。</p> <p>・事業発案の担当者の異動により、事業内容を改めて検討することに手間取り事業開始時期が遅れ計画通りに進めることが難しかったですが、そのおかげもあり講座は少人数対象となり、ひとりひとりの疑問や活用方法など講師を中心に決め細やかに対応することができました。</p>	

	<p>講座内容を動画撮影し、デジタル教材としての成果物を作る工夫をして岩槻区内の全自治会に周知することで、今後の地域でのスマホニーズに対応できる体制を作ることができました。さらに当日は学生のボランティアも参加してくれて、自治会の人と楽しくコミュニケーションをとることで、双方にとって気づきの多い場になったのではないかと思います。</p>
<p>今 後 の 展 開</p>	<p>*この事業は、次年度以降どんな事業展開を考えていますか？※翌年度以降の継続性、協働や自立事業への見込みなどについて記入してください。</p> <p>今年度の講座内容は YouTube に公開し、さらにテキストも誰でも見られるようになっているので、これらのコンテンツを周知して、地域の人へスマホの利用方法や ICT の普及を進めていきます。</p> <p>また、今後はデジタル講座開催を希望する自治会への出前講座を検討しています。各自治会によりデジタル化への意識の違いや役員の構成メンバーの属性を知るためにも、実際に単一の希望自治会へ出向いていき講座の開催や相談会を実施できればと考えています。</p> <p>その際には岩槻区自治会連合会の事務局である岩槻区コミュニティ課との協働が不可欠で、デジタル化へのアレルギー反応を少なくしつつ取り組んでいくことが必要だと考えています。</p>

事業の内容		
実施時期	労力換算番号	実施内容
R5.4.10	1	当団体と講師・岩槻区コミュニティ課によるミーティング (内容) ・コミュニティ課担当者の異動により、今までの情報共有 ・講座開催の目的の再確認
4・26	2	岩槻区自治会連合会会議にて発言 (内容) ・事業開催の周知と参加依頼※申し込み締め切り 7/7
5.12	3	当団体と講師・岩槻区コミュニティ課によるミーティング (内容) ・事業内容の精査と講座開催日程の確認 ・市民協働推進課立ち合いで協定書の締結
8.21	4	第1回スマホ講座へ向けての打ちあわせ (内容) ・6自治会 8名参加予定
9.23		事前アンケート調査→結果受領
9.28	5	<p>■第1回スマホ講座開催 9:00～11:30 第2会議室</p>  <p>参加者：7名 ・水分補給もかねての休憩タイムには、市職員と和やかにスマホ談義ができるようにテーブルセッティング。参加者の緊張感を少し抑えられるように工夫をしました。</p> <p>イラストを多用した資料と軽妙な語り口の講師に親近感を</p>
10.16		事後アンケート実施調査→結果受領
11.9		<p>第1回講座内容の動画完成 YouTube にアップ</p> <p>コミュニティ課から全自治会にサイトの案内通知</p> <p>① 「スマートフォンとは？」 <a href="https://youtu.be/ViNuVsXNO0">https://youtu.be/ViNuVsXNO0</a></p> <p>② 「スマホでできること」 <a href="https://youtu.be/2CKrO4WZAS0">https://youtu.be/2CKrO4WZAS0</a></p> <p>③ 「スマホを安全に使うために」 <a href="https://youtu.be/dgvJoxGrDk">https://youtu.be/dgvJoxGrDk</a></p> <p>④ 「スマホを自治会活動に」 <a href="https://youtu.be/mp5E8m4EjAA">https://youtu.be/mp5E8m4EjAA</a></p>
12.5	6	■第2回スマホ講座開催 14:00～16:30 第2会議室



参加者：7名 第2回目の講座は、アンケート結果を反映して主にラインの便利な使い方についての内容としました。自治会活動での便利な利用法などについて詳細に説明をし熱心に聞いて頂けました。質疑応答の時間も増やし、実際にスマホ操作ができるように一人ひとりにサポートに入る場面もつくり、苦手意識を払拭できる機会となるよう努めました。

R6.2.15

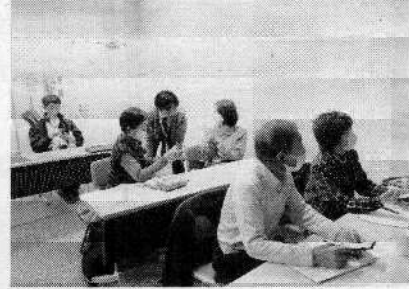
7

第3回スマホ講座へ向けての打ち合わせ

6.2.29

8

■第3回スマホ講座&質問会 14:00~16:30 第2会議室



参加者：6名 ボランティアスタッフの高校生1名 1・2回目の講座を通しての質問に答える形で講座を進めていきました。また、講座最終回にあたり、参加者（自治会役員）がそれぞれの自治会内における課題（デジタル化に限らず）を発表して、情報交換する時間を設けました。

第1回講座資料&講座内容を撮影した動画・第2回講座資料は、コミュニティ課に保存してあります。自治会活動におけるデジタル化へのサポートは、コミュニティ課を中心に継続していくこととなりました。また、今回の講師秋本創氏によるデジタル講座（月1回有料開催）が、地元のコミュニティカフェでも開催していることを告知して終了しました。

R6.3.21

9

今後の展開について打ち合わせ

R6.3

10

報告書の作成&提出

## 事業収支計算書（計画、交付申請、変更、実績）

&lt;収入&gt;

単位：円

区分		算出根拠	金額
収入合計 (A)		(a) + (b)	126,924
自己資金額 (a)		①～⑥の合計 (d) と同額	30,731
団体の自己資金	① 自己資金		10,731
	② 寄附金		10,000
	③ 協力金		10,000
費用の徴収	④		
	⑤		
	⑥		
助成金交付申請額 (b) (助成金収入・100万円以内)		(c) と同額	96,193

&lt;支出&gt;

区分		算出根拠	金額
支出合計 (総事業費) (B)		(c) + (d)	126,924
助成対象経費のうち 助成金限度額を 上回らない経費	① 謝金・報酬	講座講師料25,000円×3回 動画制作費50,000円 125,000円のうち助成金充当分	94,269
	② 旅費	講師交通費	1,924
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
	⑦		
	⑧		
	⑨		
	⑩		
助成金充当経費計 (c)		①～⑩の合計 (b) と同額	96,193
助成対象経費のうち 助成金限度額を 上回る経費	⑪ 謝金・報酬	講座講師料25,000円×3回 動画制作費50,000円 125,000円のうち助成金を上回る分	30,731
	⑫		
	⑬		
	⑭		
助成対象外経費	事業に附随して 必要な経費 ((c)の10%以内)	⑮	
		⑯	
		⑰	
	事業に附随して 必要な事務局 人件費	⑱	
		⑲	
		⑳	
自己資金充当経費計 (d)		⑱～⑳の合計 (a) と同額	30,731

※(A)=(B)、(a)=(d)、(b)=(c)となるように記入してください。